



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY

2024年8月30日

報道関係者各位

明治ホールディングス株式会社  
北海道大学

## 持続可能な酪農業の実現に向け、 明治グループ、北海道大学、ファームノートグループで 子牛の健康に関する研究を開始

明治ホールディングス株式会社（代表取締役社長 CEO：川村 和夫・以下、明治 HD）、国立大学法人北海道大学（総長：寶金 清博・以下、北海道大学）、ならびに株式会社ファームノートホールディングス（代表取締役：小林 晋也）のグループ会社である株式会社ファームノートデイリープラットフォーム（以下、ファームノート DP）は、このたび子牛の健康に関する取り組みを開始しました。

持続的な酪農を実現するには、生乳生産の基盤となる子牛の健康をケアしていくことが大切と捉えています。

乳牛は生まれてから哺乳期（約2カ月）、育成期（約12カ月）、妊娠期（約10カ月）を経て、子牛を産み、乳を作るようになります。子牛から成牛へと成長する最初の2年間はその後生乳生産に向けた初期投資期間にあたるため、適切な管理のもとで健全に育成することが重要となります。特に哺乳期の子牛は免疫システムが発達途上にあるため成牛よりも病気になりやすく、飼育管理により一層の注意が必要とされます。また、子牛が病気がちの場合、治療のための労力や費用の増加、発育の遅れに加え、成牛となってからの生産性も低下するリスクが高くなります。いかに子牛を健康に育てていくかは生乳生産の経済性に直結するため、酪農経営上重要なポイントとなっています。

そこで、明治 HD の研究開発機関であるウェルネスサイエンスラボは、家畜栄養や牛の消化管内細菌叢の専門家である北海道大学大学院農学研究院の小池 聡教授、自ら牧場を運営しているファームノート DP、および明治グループで飼料販売を行っている明治飼糧株式会社と連携し、子牛の健康に関する調査研究に着手することとしました。

この研究では、動物の健康に深く関与する消化管細菌叢に着目し、子牛から成牛へと成長する過程で消化管細菌叢がどのように変化するかを長期間に渡って調査します。

この調査を通して、子牛の健康状態の把握や病気の予防、治療に役立てられるような知見を得ることを目指します。

今後もさらなる研究を進め、持続可能な酪農の実現に向け、酪農現場が抱える課題の解決に取り組んでいきます。



子牛からの試料採取の様子

#### 【参考情報】

- ・株式会社ファームノートホールディングスについて

ファームノートグループは「技術革新を通じて、持続可能な豊かさに貢献する」ことを目指し、プロダクト・ソリューション事業およびインテグレーション事業を展開しています。プロダクト・ソリューション事業では、クラウド牛群管理システム、牛向けウェアラブルデバイス、牛遺伝子検査サービスなどを提供し、酪農現場の生産性向上に向けスマート酪農を推進しています。インテグレーション事業では、これら技術の高生産性を実証するとともに、サステナブル酪農に向けたさまざまな取り組みの実証実験の場として、自社牧場を運営しています。

<https://farmnote-hd.com/>

- ・スマート酪農、サステナブル酪農を推進する“酪農 DX スタートアップ”  
(2023年8月2日リリース)

[https://www.meiji.com/pdf/news/2023/230802\\_01.pdf](https://www.meiji.com/pdf/news/2023/230802_01.pdf)

- ・酪農乳業を、もっと持続可能に。

<https://www.meiji.com/sustainability/dairy/>

- ・ 明治グループのサステナビリティ  
<https://www.meiji.com/sustainability/>
- ・ 明治グループのイノベーション  
<https://www.meiji.com/innovation/>

以上